

# ○天草市地球温暖化防止実行計画 平成30年度実施の状況

## 1 温室効果ガス総排出量の比較

市施設における平成30年度温室効果ガス総排出量は、基準年度(平成18年度)と比較して約21.8%減少しました。また、本計画による目標値として掲げていた基準年度から11%の削減についても達成することができました。温室効果ガス排出量が減少した主な要因としては、電気使用に伴う二酸化炭素排出量の算出に用いる排出係数が低下したこと、平成28年の熊本地震で被害を受けた本庁舎解体に伴い、重油焚きの空調設備を使わなくなったことや本渡衛生センターの廃止によりA重油使用量が減少したことが大きな要因と考えられます。

	排出量(kg-CO <sub>2</sub> )	増減率
基準年度(平成18年度)	4,123,925	
算定年度(平成30年度)	3,225,369	-21.8%
目標年度(平成30年度)	3,670,293	-11.0%

## 2 電気・エネルギー使用量の比較

すべての項目において、基準年度から削減することができました。特にA重油については、平成28年の熊本地震で被害を受けた本庁舎解体に伴い、重油焚きの空調設備を使わなくなったことや、本渡衛生センターの廃止により大きく減少しています。また、灯油についても、幼稚園の空調設備導入により、大きく減少しています。

項目(単位)	基準年 (平成18年度)	算定年 (平成30年度)	増減	増減率
電気使用量(kWh)	7,294,634	7,107,446	-187,188	-2.6%
A重油使用量(L)	121,576	29,050	-92,526	-76.1%
LPG使用量(m <sup>3</sup> )	13,558	11,209	-2,349	-17.3%
都市ガス使用量(m <sup>3</sup> )	94,308	90,118	-4,190	-4.4%
灯油使用量(L)	6,741	1,548	-5,193	-77.0%
ガソリン使用量(L)	189,753	117,555	-72,198	-38.0%
軽油使用量(L)	17,929	8,023	-9,906	-55.3%

## 3 温室効果ガス総排出量減の主な理由

【基準年度と比較して減少した要因】

- ・算定対象施設の廃止。
- ・省エネルギーの取組みによる燃料使用量の減少。
- ・対象施設の民営化や、高効率照明などの省エネ機器の導入による燃料使用量の減少。
- ・低燃費車の導入、近場への徒歩や自転車の活用、エコドライブの実践などによる公用車燃料使用量の減少。
- ・本庁舎の解体や、本渡衛生センターの廃止による重油使用量の減少。
- ・電気の使用に伴う二酸化炭素排出量の算出に用いる排出係数の低下。

電気の使用に伴う二酸化炭素排出量は、電力会社で1kWhの電気を作り出す際に排出される二酸化炭素の量(排出係数)に応じて計算されます。

東日本大震災以降、二酸化炭素を多く排出する火力発電の割合が増加していましたが、平成30年度は原子力発電や再生可能エネルギー発電の割合が増加したことから、基準年度の排出係数は0.375でしたが、平成30年度は0.319と大きく低下しており、本市の温室効果ガス総排出量の8割近くを占める電気使用に係る二酸化炭素排出量は、基準年度から約17.1%減少しました。

仮に、基準年度(平成18年度)における排出係数に置き換えて計算した場合、本市の温室効果ガス総排出量は3,608,730kg-CO<sub>2</sub>となり、基準年と比較して約12.5%削減となります。